

お子さんの発達に何らかの遅れがみられるのならば、できるだけ早めに摂食嚥下指導を受けることをお勧めします。

子どもは、小さければ小さい時の方が、発達する力を強く持っています。食べる機能に障害があっても、早期に訓練を開始することで少しの遅れで済むことも多くあります。また、自分なりのまちがった異常な食べ方（過開口、スプーン噛み、舌突出など）を覚えてしまっている場合も、早期からの訓練の開始により改善させてあげることが可能です。

食べる機能に障害があるのかもしれない？と思ったら、なるべく早く機能の評価を受けるようにしてください。きちんとした評価を受けることで、障害が小さいうちに軌道修正をしてあげることが可能となります。

子どもの心身の障害が重く、呼吸や誤嚥の危険性から口から食べることを禁止されている場合も、全身状態に負担のない範囲で、積極的に体や顔、口へ刺激を与えていきましょう。この刺激が発達のためにとっても重要なものになります。

摂食嚥下指導は、どのような障害がある子どもでも、なるべく早期から行うことが大切だと勘得ています。

早期の訓練開始をお勧めしていますが、大人になってしまったらもうダメなのでしょうか、という質問をよく受けます。最近は、摂食嚥下指導を行う施設や医療者が増えてきているため、低年齢からの訓練が増えていますが、10年前までは訓練を行える施設や医療者が少なかったために、年齢の高い子どもの場合、摂食嚥下訓練の経験がない場合も多く見られます。

大人になってからの訓練開始の場合、発達期を過ぎているので、機能獲得が難しくなります。しかし、当院の患者さんで40歳、50歳以上の脳性麻痺や知的障害の患者さんで訓練を受けてから咀嚼や嚥下が上手になった患者さんは多くいます。何歳になっていても、患者さんを発達の順番の道筋に乗せてあげることができれば、食べる機能を良い方向に変えることは可能なのです。

大人になっても摂食嚥下指導は非常に重要なことですので、ぜひ、機能評価と訓練を受けることをお勧めしています。



医療法人社団瑞祥会

いづか歯科クリニック

千葉県印西市草深2419-9 〒270-1337

TEL 0476-47-1179

iizuka-shika.jp

